

# 算 数 科

【第1学年】「        」は、新規の内容」「波線~~~~」は、スパイラルのため学年間で重複させる内容」

「下線\_\_」は学年間などで移行させる内容」

領域	内 容	具体的な取扱い方
A  数 と 計 算	(1)数の意味と数の表し方 ・ 2位数 ・ <u>簡単な3位数</u> など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 簡単な場合について、3位数の表し方を指導する。ここでの簡単な場合とは、120程度までの3位数である。具体的に数を数えて、100のまとまり、10のまとまりの個数、端数として表すなどの活動に取り組むようにすることで、2位数までの意味や表し方について確実に理解できるようにしたり、第2学年での3位数へと連続性や発展性をもって接続できるようにしたりする。</li> </ul>
	(2)加法・減法 ・ 1位数の加・減 ・ <u>簡単な2位数の加・減</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 簡単な場合について、2位数などの加法及び減法の計算の仕方を考える。</li> <li>十を単位としてみられる数の加法、減法</li> <li>・ <math>20 + 40</math> や <math>70 - 30</math> などの計算（十を単位とした数の見方に関連させると、<math>2 + 4</math> や <math>7 - 3</math> を基に考えられる。）</li> <li>繰り上がり・下がりのない2位数と1位数との加法、減法</li> <li>・ <math>13 + 4</math> や <math>20 + 5</math> のような加法</li> <li>・ <math>15 - 2</math> や <math>38 - 8</math> のような減法</li> <li>2位数を含む加・減法を指導していくことで、1位数までの計算の理解を確実にしていくだけでなく、2位数までの数の理解もより確実にしていくようにする。また、第2学年で取り扱う2位数についての加・減法の計算の仕方を考える際に有効に働いていく。</li> </ul>
B  量 と 測 定	(1)量と測定についての理解の基礎 ・ 長さ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">面積、体積</span> の大きさの比較	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第1学年では、長さや面積、体積という量の意味や測るということの意味を理解する上での基礎となる経験をさせることをねらいとしている。</li> <li>・ 面積の比較についても重ねて比べられない場合は、色板を並べたり方眼を塗りつぶしたりといった活動を通して意識させていく。</li> <li>・ 体積については、一方の容器に入れた水を他方の容器に移して比べたり、二つの容器いっぱいに入れた水を第三の容器に移して比べたり、コップや茶わんで何杯分あるかを調べ比べたりする。</li> </ul>
	(2) <u>時刻の読み方</u> ( <u>小2から移行</u> )	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童の日常生活の中で、時刻を読むことは、比較的早くから必要になる。長針、短針をもつ時計を見て、時刻（時、分）を読むことができるようにする。また、日常生活での活動などと時刻とを関連させることにより、日ごろから時刻に関心をもてるようにすることが大切である。</li> </ul>

領域	内 容	具体的な取扱い方
C 図 形	<p>(1) 図形についての理解の基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りにあるものの形( <b>平面図形</b> , 立体図形)の観察や構成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>立体図形や平面図形についての基礎となる経験を豊かにすることをねらいとしている。</li> <li>箱や茶筒や積み木の面から「しかく」「さんかく」「まる」の形を見付ける活動の中で、形の特徴(かどがあること、とがっていることなど)をとらえていく。</li> <li>筒の形は置き方によっては転がりやすくなったり、重ねて積み上げることができたりする形であること、ボールの形は、転がりやすい形であること、箱の形は積み上げることができる形であることなどの立体の機能的な側面について指導する。</li> <li>身の回りで形がどんなところに見られるか、どんな特徴があるか着目させる。また、箱の観察をしたり、その面を紙に写し取る活動や写し取った形と同じ形が身の回りのどこにあるかを見いだす活動も大切である。</li> <li>これらの活動を取り入れ、平面図形と立体図形の両方を指導する点が改善されている。</li> </ul>
D 数 量 関 係	<p>(1) 加法, 減法の式</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>式による表現 → <b>加法や減法の場面を式に表す(「数と計算」から移行)</b></li> </ul> <p>(2) <b>絵や図を用いた数量の表現</b></p>	<p>(1) 式は、場面の様子を表現したり、答えを求める過程を表現したりするものとしてとらえられ、算数固有の表現として重要なものである。</p> <p>・ 加法及び減法が用いられる具体的な場面を、+ や - の記号を用いた式に表し、それらの式を具体的な場面に即して読み取ったり、式を読み取って図や具体物を用いて表したりすることを重視する。</p> <p>(2) ・ ものの個数を絵や図などを用いて表したり、読み取ったりすることができるようにする。</p> <p>・ ものの個数を数えたりするとき、例えば、あひる、ねこ、うさぎ、りすなどのように幾つかの種類のものを数えるとき、絵や図などを用いて、以下のように表すことができるようにする。また、このように表したものから、数が最も多いところや少ないところなどの特徴を読み取ることができるようにする。</p> 